

令和 6 年度
日野市郷土資料館の
運営の状況に関する評価書
(令和 5 年度事業)

令和 6 年 10 月
日野市ふるさと文化財課
(郷土資料館)

目次

1 はじめに	1
2 評価の目的	1
3 郷土資料館の現状	1
(1)組織と職員	
(2)主な業務	
4 評価の実施方法	1
5 評価の対象	2
6 評価の結果	2
7 写真で見る日野市郷土資料館	4
8 事業別 郷土資料館の運営状況の評価表	5～18

参考資料

I 令和5年度 日野市郷土資料館の活動状況	19～27
II 日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱	28
III 第10期日野市郷土資料館協議会委員名簿	29

1 はじめに

平成15年以降、「博物館の設置及び運営に関する基準」に基づき、郷土資料館は事業の水準の向上を図り、郷土資料館の目的を達成するため、自ら評価を行い郷土資料館協議会の御意見をいただき、その結果を公表するように努めてきております。

さらに、平成20年の「博物館法」の改正により、郷土資料館の運営状況に関する評価として、「博物館は、運営の状況に関する評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない」とされています。

これらを受け、郷土資料館では、平成21年3月、「日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱」を制定し、郷土資料館の運営状況に関する評価を実施しております。

2 評価の目的

この評価は、郷土資料館の運営状況に関する情報を、積極的に公表することにより、郷土資料館の利用者や関係者との相互の理解を深めるとともに、連携・協力を図り、郷土資料館の事業を推進することを目的とするものです。

3 郷土資料館の現状

(1) 組織と職員

令和5年度 ふるさと文化財課

館長1(ふるさと文化財課長兼郷土資料館長)

〔庶務係〕係長1、再任用1

〔学芸係〕係長1(学芸員)、主査1(学芸員)、主任5(学芸員)、主事2(学芸員)、会計年度職員4

(2) 主な業務

平成17年4月1日、ふるさと博物館から組織変更した日野市郷土資料館は、次の目的を達成することを目指して活動をしています。令和3年4月から郷土資料館、新選組のふるさと歴史館、生涯学習課文化財係が組織統合し「ふるさと文化財課」となり郷土資料館の使命を引き継いでいます。

- ① 歴史、民俗、自然等の資料の収集、保管及び展示に関する業務
- ② 資料の調査研究に関する業務
- ③ 資料の普及広報活動に関する業務
- ④ 学校教育や市民による自主的学習活動への支援の連携業務

4 評価の実施方法

郷土資料館では「日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱」に基づき、毎年1回、郷土資料館協議会へ運営状況についての自己評価を提出し、協議会の評価を併せて評価書としてまとめ、教育委員会へ報告いたします。その後、市民の皆様へ公表することとしています。

さらに、その評価の結果に基づき、今後の郷土資料館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めていきます。

5 評価の対象 令和5年度の評価対象は、次の8事業について行うこととしました。

No.1 学校教育との連携事業

No.2 企画展等開催事業

No.3 日野市市制施行60周年 異聖歌没後50年記念 日野市・紫波町連携事業
特別展「童謡詩人 異聖歌 ～児童文学に生きた、ひとすじの道～」開催事業

No.4 文化財緊急調査および資料収集事業

No.5 古文書等歴史資料の調査・整理事業

No.6 百草・倉沢エコミュージアム事業

No.7 市民協働調査事業

「勝五郎生まれ変わり物語」と「七生丘陵の自然と歴史」の調査と発信事業ほか

No.8 資料館講座・体験学習事業

6 評価の結果

<<郷土資料館協議会の評価・意見>>

令和5年度評価対象事業の項目別概要は次の通りです。

No.1 学校教育との連携事業

従来からの学校と郷土資料館との協力・連携体制が、コロナ禍のもとで途絶えてしまったとの指摘があり、新たな連携体制の構築のため、デジタルツールの柔軟な活用などの提言いただきました。

No.2 企画展等開催事業

郷土資料館では令和5年度も民俗資料や考古資料など、多彩な資料に関する企画展示を実施し、それぞれについて評価をいただきました。特に資料の収集・整理・調査の過程など、博物館の業務や役割をより積極的に発信するよう、意見をいただきました。

No.3 日野市市制施行60年記念 異聖歌没後50年記念 日野市・紫波町連携事業 特別展「童謡詩人 異聖歌 ～児童文学に生きた、ひとすじの道～」開催事業

異聖歌と新美南吉の関係に力点を置いた展示内容のほか、展示に向けた資料調査や、講演会や朗読会といった各種関連行事にも評価をいただきました。

No.4 文化財緊急調査および資料収集事業

遺跡の開発協議と日野桑園第一蚕室について、意見をいただきました。

No.5 古文書等歴史資料の調査・整理事業

図書館との連携による旧日野町や旧七生村の行政文書のデジタル化や、点数が少ないながらもデジタルアーカイブの公開が始まったことなどに、評価をいただきました。現代の行政文書の保存を進めるとともに、文書資料の保存場所の確保を求める意見もいただきました。また、従来の古文書講座に加え、子ども向けの古文書講座の実施について、提案をいただきました。

No.6 百草・倉沢エコミュージアム事業

長年活動が続けた研究会参加者のスキルの高さや、高齢化に関する意見をいただきました。

No.7 市民協働調査事業「勝五郎生まれ変わり物語」と「七生丘陵の自然と歴史」の調査と発信事業ほか
勝五郎生まれ変わり物語探求調査団の取り組みをWeb上で公開している点などに評価をいただきました。

No.8 資料館講座・体験学習事業

どんど焼き事業について、多摩地区で行われるどんど焼き、サイノカミが本来どのようなものであったか、素材の問題も含めて再検討するよう、意見をいただきました。

<<郷土資料館の自己評価>>

ふるさと文化財課は、令和3年4月の発足後、これまで行ってきた業務を停滞させることなく、専門職員の協力体制の下でその継続・深化をはかることと、地域の文化財を面としてとらえ文化財の総合的な把握を行うこと、の2点を当面の目標として各種事業に取り組んできました。

令和5年度の郷土資料館については、展示事業では、異聖歌没後50年を期して、展示のほか講演会や朗読会、見学会など多彩な内容で構成された特別展「童謡詩人・異聖歌」を開催しました。このほか、郷土資料館を会場とした企画展とパネル展をそれぞれ4回開催し、「ひのっ子学び展」や「日野を語る資料」などの新しい切り口の展示や、新発見資料を速報的に展示した「中世瓦が語る寺と神社」、あるいは異聖歌の特別展開催に向けてパネル展を連続開催するなど、柔軟に事業を展開することができました。

また、展示以外では、歴史的な行政文書のデジタル化を進め、デジタルアーカイブの公開を開始したことや、市内個人宅の蔵の解体に際して緊急調査を行ったことなどが、トピックとしてあげられます。

まだまだ手探りではありますが、発足から3年目を迎え、専門の垣根を越えて事業に取り組む体制が、出来あがりつつあると認識しています。

今回の評価では、資料の収集・保存や、調査研究といった資料館の業務そのものについても、積極的に情報発信するべきとのご意見をいただきました。

日野市郷土資料館は、前身となる日野市ふるさと博物館の開館から30年以上、市史編纂や日野史談会などによる民俗資料の収集活動などを含めると実に60年の長きにわたって、郷土の資料を収集・保存してきました。そしてこれからも、収集・保存する資料は、人の営みが続く限り増え続けます。

しかしながら、収蔵スペースには限界があり、日野市においては公共施設再編の動きが本格化しつつあります。このような状況下で、膨大な資料の収蔵スペースの確保し、保存環境を整備するためには、なぜこれらの資料を保存すべきなのかをきちんと説明し、理解を得ることが大切です。

資料の収蔵スペースの問題は、ふるさと文化財課だけで解決できることではありませんが、ご意見をいただいたように、資料館の仕事や文化財を保存・継承する意義を発信する取り組みを行い、市民一人ひとりが自らの意志で文化財を保存・継承する仕組みを作り上げたいと考えています。

評価対象となった各事業の自己評価及び郷土資料館協議会からいただいた評価及び意見は、5ページ以降の評価表のとおりです。

7 写真でみる日野市郷土資料館

郷土資料館は、日野市を調べ、館内での展示のほか出張展示、体験学習、野外講座など様々な方法でふるさと日野を伝えています。



日野市制施行60周年パネル展 多摩動物公園にて



企画展「日野を語る資料～未来へ託す収蔵品～」



特別展 「童謡詩人 巽聖歌
～児童文学に生きた、ひとすじの道～」



古文書講座「南平のおかし」



探訪会～七生丘陵の見晴らし散歩



どんど焼きの小屋作り

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No.1 学校教育との連携事業
事業の概要	
・市内の文化財を活用し、小中学校、高等学校と幼稚園・保育園などを対象とした文化財の啓発事業を展開する。 ・社会科見学や出前授業、見学会、職場体験などは、小中学校などの要望を取り入れた内容で行う。 ・授業などに用いる写真資料や、参考文献などの情報を提供したり、見学場所や人材紹介などを行う。 ・当館で蓄積した画像データなどを、学校に提供して ICT 教育の教材として活用をはかる。 ・学校教育や郷土教育推進研究委員会と連携し、郷土に関する情報の発信を行う。	
事業の成果	
新型コロナウイルスによる来館見学や校外学習が復活したと考える。七生特別支援学校高等部とは見学と出張授業をセットにした地域学習の連携が始まった。社会科見学などでは、担当教員との事前調整を十分行うよう心掛けたため、学校側のニーズが明らかに、適確な対応が可能となった。 ＜来館＞ 社会科見学や地域学習など小中高 学校来館 15 件（令和4年度 11 件、令和3年度 5 件）、中学校職場体験 4 件（令和4年度5件、令和3年度は職場訪問1件） ＜出張授業＞総合的な学習の時間 日野の自然、異聖歌。社会科 日野のうつりかわり昔の道具。特別支援学校高等部 日野市を知ろう など令和5年度10件（令和4年度6件、令和3年度 8 件）	
協議会の意見	
・校外学習や外部講師で感染症対策として制限は現在設けていない。感染症流行時に学校と資料館との関わりが途切れ、3、4 年実施しないと資料館が持っている学校教育に役立つノウハウや資料についての情報が引き継がれにくくなり、教員が知らないことが考えられる。 ・コロナ以前のことを引き継ぐのは難しい。今までとは違う方法、特にデジタルが得意な若手の先生には、得意な方法で広報をすると、学校からのアプローチがし易いのではと感じている。 ・写真や参考文献などの情報提供は教員に有用な情報だが、ネットに頼ると手間や時間を要する。郷土資料館が持つ日野の学習に必要な情報に容易にアクセスできればとても有用である。 ・児童・生徒自身が端末を利用して容易にアクセスができれば、授業の中で画像データなどを活用できれば有用でありがたい。 ・学校側の希望を明確に資料館に伝えられないのは学校の課題でもある。 ・職場体験は、エリアの問題もあるが、もっと多くてもよいと思う。どのような職場体験ができるのかを明示すれば、他の学校からも依頼や問合せがくるのではないかと。教員が把握していないことも課題で、資料館までの距離感や仕事内容、どんなキャリアにつながるのかといった理解を進めなければいけないと思う。 ・中学生で職場体験をすると、小学校での経験とは異なった中学生の学習の視点で見つめることができる。今後、郷土資料館の活用を学習対象にできる、その対象の一番は「総合的な学習の時間」で、地域でいろいろと学ぼうとしている。「第4次日野市学校教育基本構想」では「地域共創」プロジェクトを立ち上げて、各学校がかかわり動き出そうとしている。地域で自分が何をできるかとか、そういったものの中で学習を行うのがとても大切だと思う。 ・八王子東特別支援学校への出前講座（※委員の勤務先が実施）では、普段実際に川に行くことが難しい小学部～高等部までの児童生徒に、「川の生きものを知ろう」体験の出前講座を行った。実際の川の雰囲気や水の生きものを体感するために、水やウナギなどの川魚に触る体験や、川の映像の視聴、水生生物の水槽展示のコーナーを子どもたちが順繰りに周った。車イスやコミュニケーションが困難な子どもたちが、実物を見たり触れたりすることで、普段とは違う表情や行動が見られた。重度の障害がある子どもたちに、学習・体験の機会を設けることはとても大切なことだと思う。七生特別支援学校は校舎もすぐ近くで、ぜひ今後も連携を深めていきたい。 ・特別支援学級や教育センターわかば教室との連携も進めていきたい。長池公園でも近隣の八王子市立の小学校 3 校の特別支援学級を受け入れ、それぞれ定期的に自然観察の授業を公園で行っている（毎月、四半期に 1 回など）。学校ごとの雰囲気の違いや生徒ごとの個性の違いなど様々あるが、通常の学級よりも少人数なため、一人一人の児童と向き合う事の出来る時間が多く、より有意義な体験をしてもらえると感じている。	

No.1 学校教育との連携事業

課題と改善策

- ・社会科見学では、児童数が多い学校の場合は行程が慌ただしく、説明時間も十分にとれない。事前協議の上、資料館で何を優先して学びたいのかニーズを汲み取って対応する。
- ・電話連絡が難しい教諭との調整に校務支援システムを積極的に使った。見学モデルプランや会場図面を送信した。学年の各担任に一斉送信が可能で、教諭との連絡調整に有効だった。今後も活用を工夫する。
- ・郷土教育推進研究委員会を通してなど、郷土資料館からの学校への情報の発信や学校からの情報を受け取り、引き続き連携を強化する。
- ・七生特別支援学校からは、毎年の利用がなく日野市立の小中学校と比べると連携が稀であった。高等部から日野市の地域学習は、令和6年度も実施予定であり、経験を積み重ねて、更なる連携を図る。
- ・中学校は職場体験のみであった。職場体験の機会を通じて関係を築きふると日野を生徒および担当教諭に伝え、中学校による資料館利用の多様化に結びつける。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No.2 企画展等開催事業
事業の概要	
・郷土資料館が実施する展示は、歴史館で実施する特別展示、資料館内での常設展・企画展・パネル展館外で実施する出張展示である。特別展を除く展示事業をこの項目にとりあげる。 ・郷土資料館は旧小学校舎を活用しており、3教室分で資料を収蔵しながら展示を実施している。 ・テーマを設定して様々な、日野の歴史・文化・自然を伝えている。また、廊下壁面でのパネル展示や、館外でのパネル展示を実施し、より多くの方々にふるさと日野を伝える展示を実施している。	
事業の成果	
1 企画展(4回/年) 会場:郷土資料館 「七生丘陵ハイキング～身近な自然を訪ねて～」4月1日～7月9日 883人 「ひのっ子学び展 ～地域を知る副読本と給食～」7月15日～10月1日 978人 「中世瓦が語る寺と神社―日野の真慈悲寺と百草八幡神社」10月7日～R6年1月14日 981人 「日野を語る資料～未来へ託す収蔵品～」R6年1月20日～4月14日 1,058人 2 パネル展(4回/年) 会場:郷土資料館 「たきびの詩人 巽聖歌没後50年記念パネル展」4月6日～6月27日 「明日に伝える戦争体験 ～戦争の時代と児童文学者 巽聖歌」6月29日～10月1日 パネル展「中世の大寺院 真慈悲寺」10月7日～R6年1月14日 3 出張展示 巽聖歌パネル展 令和5年度全7回 旭が丘中央公園・市役所・平山季重ふれあい館 「七生丘陵散策コース 見晴らし台」平山季重ふれあい館 令和5年3月25日～6月20日 「花も実もある七生丘陵散策コース(樹木編)」R6年3月23日～6月30日(期間延長) 「日野市市制施行60周年記念イベント 七生丘陵の自然と変遷」5月27・28日多摩動物公園 「戦後の高幡とハイキング」高幡図書館 11月1日～11月30日 真慈悲寺パネル展 京王百草園会場 2回 11月、2月 ・歴史、考古、民俗、自然、文学といった多様なテーマを取り上げて展示し、郷土資料館が地域と関わりをもって活動をおこなった。 ・令和5年度は、巽聖歌の出張展示を複数回開催し、市制60周年もあったことから出張展示が増加した。 ・アウトリーチ活動を積極的に展開することにより、施設の制約を超えた普及活動を展開できた。 ・資料が失われてしまう時代に、資料の大切さを伝えた。 ・新たに発見された中世瓦を速報的に紹介した。	

No.2 企画展等開催事業

協議会の意見

- ・「日野を語る資料～未来へ託す収蔵品～」は、所蔵している千歯扱きや脱穀の資料が展示されており、展示を普通に見るだけでは理解が難しい。担当学芸員の説明を聞くと、流通やどういう人が作ったとか、どういう狙いがあったとか、とても面白い。実際のをめぐってのバックグラウンドが浮き彫りになっていくのでとても面白かった。来館者によって解説の受け取り方はまちまちだと思うので、いろいろな視点からその資料を解説することがとても大切だと思う。
- ・博物館が様々な資料を収蔵している認識を実はよく理解していない人も多いと思う。その大切な収蔵資料を見せる展示を、ネーミングで少しでも分かる形で展示できると、博物館が市民に果たす役割ということも訴えかけていけると思う。
- ・千歯こきには製作者の名前が書かれているが、錆で見えなくなるため、読み取るために手間をかける学芸員の仕事があることを知って欲しい。
- ・千歯扱きの錆を落とすことについて、錆びた現状のまま保管する方がよいのか、錆を落とす作業をするのかどちらがよいのか疑問である。
- ・鉄製品の農具を全てピカピカに磨いて展示している資料館があり、意見がまちまちであった。
- ・資料には様々な形態があり、産業遺産では動態保存といって動ける状態で保持していくことがある。古文書や土器などそれぞれ性格が異なるので、それぞれの特質にあった保存の仕方がある。当然異なる意見や論議があってよい。
- ・郷土資料館の展示、常設・企画展とも、写真撮影、SNS 拡散を個人利用に限り、原則自由にした方がよいと思う。資料館側からの情報開示、広報には、限界があり、一般の来館者の情報伝達力を活用することで、催しに活気が出るからである。山梨県北杜市考古資料館では、館内撮影や SNS シェアの個人利用 OK のポップがあり、参考になる。
- ・日野を語る資料の「資料から一言」というキャプションについて、好評な意見がネット上の様々なところで見られた。
- ・「ひのっ子学び展～地域を知る副読本と給食～」の給食は子どもたちにとって身近な題材であり、興味を持ちやすいと思う。給食の食材、食器の変化も展示してあり、大人が見ても子供の時の給食を振り返ることのできる面白い展示だった。学校給食の食材に日野産野菜が豊富に使われてることや、学校ごとに SDGs への独自の取り組みを行っているなど、学校調理である日野市ならではの展示だと思う。
- ・「日野を語る資料～未来へ託す収蔵品～」資料館の役割を市民の方へ伝えることは、とても重要だと思う。実際に資料館へ訪れた方だけでなく、普段資料館へ訪れない・知らない方に向け、ぜひ出張展示として同様の企画をやっていただきたい。
- ・日野宿交流館2階の展示スペースが、あまりにもったいない。新選組だけでなく、日野市全体の通史、民俗、自然の展示館の必要性が、ずっと懸案になっている中、有効に活用すべきだと思います。場所もよいので、新選組については、交流館に集約できるのではないかと。遠方からの新選組ファンには駅が近く大いに喜ばれるし、来館者も増えると思う。

課題と改善策

- ・通史を伝える展示の必要性を認識しつつも実現できていない。分野や対象地域についても幅広く柔軟に企画展のテーマを検討する。
- ・学校の周年行事に展示パネルが昨年度好評であったが、そのほかの館外展示の機会をつくる。
- ・展示をきっかけに文化財の所在場所など紹介するなど、目を外に向ける工夫をする。
- ・LINE や X(旧ツイッター)などでの情報発信を行い、情報発信の面で一定の成果が得られた。今後もよりの確な情報発信の手法を検討したい。
- ・千歯扱きの錆の場合は、資料の来歴を知るためや、錆のない現役に使用されていた状態に戻すという目的で錆を落とした。どの状態をもって資料の原型として、保存していくのかは資料の性質や資料をもとに行う調査の目的に応じて判断する必要がある。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目 No.3 日野市市制施行 60 周年 異聖歌没後 50 年記念 日野市・紫波町連携事業
特別展「童謡詩人 異聖歌 ～児童文学に生きた、ひとすじの道～」開催事業

事業の概要

童謡「たきび」の詩人異聖歌の没後 50 年及び日野市市制施行 60 周年記念に合わせ、新たな資料と新
知見を加えて異聖歌の生涯と業績を振り返る特別展を行った。

<展示構成>

第一部 文学への道／第二部 託された大きな仕事—花咲ける日の南吉へ—／第三部 後半生を旭が
丘で過ごした異聖歌

展示会場には、異聖歌の作品や、聖歌宛の新美南吉の手紙、聖歌が後半生をかけて世に送り出した新
美南吉の作品集、聖歌の妻であり画家であった野村千春が、新美南吉を描いたデッサンをもとに製作し
たという絵画等を展示した。会場には、来館者が聖歌や南吉の作品を手にとって読めるコーナーも設置
した。

【会 期】令和 5 年 10 月 7 日(土)～12 月 10 日(日)

【会 場】新選組のふるさと歴史館

事業の成果

特別展会期中の入館者 2,345 人

特別展関連行事の開催

(1)10 月 21 日(土)及び 11 月 18 日(土) 朗読会と展示解説

講師:「朗読の会うづき」および職員 36 人参加

(2)11 月 19 日(日) 講演会「兄さんは僕についてすべてを知ってる～新美南吉にとっての異聖歌」

講師 遠山光嗣氏(新美南吉記念館館長) 66 人参加

(3)12 月 8 日(金) たきび祭前夜祭 講演会「異聖歌とふるさと紫波町」

講師 内城弘隆氏(紫波町日詰地区先人顕彰会会長) 72 人参加

※そのほかの異聖歌普及事業

・パネル展の開催

郷土資料館内パネル展:「たきびの詩人 異聖歌没後 50 年記念パネル展」

「明日に伝える戦争体験～戦争の時代と児童文学者 異聖歌」

日野市役所パネル展:「野村七蔵と異聖歌」「童謡詩人 異聖歌の活躍」「戦時下の児童文学者 異聖
歌」「後半生を旭ヶ丘で過ごした児童文学者異聖歌」

旭が丘中央公園での異聖歌パネル展(桜まつり、たきび祭)

平山季重ふれあい館でのパネル展

・異聖歌 ゆかりの地をめぐるバスツアー(2 回)

・4 月 22 日 旭が丘中央公園～喜福寺(八王子市)21 人参加

・3 月 14 日 中野区上高田界限、林芙美子記念館、中野区歴史民俗資料館 25 人参加

・小学校の教科書で馴染みもある新美南吉と聖歌の関係を明らかにし、市民の理解を深めることがで
きた。

・特別展を契機に各地での調査を実施し、異聖歌関連した資料・情報の蓄積は全国で最も充実したレベ
ルまで高めることができた。

・特別展では、異聖歌の妻野村千春が当時の多摩平・旭が丘付近を描いた黒い土の絵の実物を諏訪市
美術館から借用展示した。千春の作風を間近で鑑賞できるだけでなく、異聖歌夫妻の日野に根差した
生涯を伝えることができた。

No.3 日野市市制施行 60 周年 巽聖歌没後 50 年記念 日野市・紫波町連携事業
特別展「童謡詩人 巽聖歌 ～児童文学に生きた、ひとすじの道～」

協議会の意見

- ・特別展「童謡詩人 巽聖歌」は、これまでの資料調査や研究成果を踏まえた展示内容で見応えがあった。
- ・巽聖歌という人物を通して東北地域や各地の記念館など交流ができて、今までの郷土資料館の蓄積が開花した。日野市と岩手県紫波町の連携事業であるとともに、愛知県半田市の新美南吉記念館とも連携することができた。さらに長野県諏訪市美術館から野村千春作品を借用、バスツアー見学での林芙美子記念館や中野区立歴史民俗資料館の協力など、関係する機関との交流も深められた。
- ・巽聖歌の資料整理は現在も継続中なので、関係機関とのさらなる交流を見据えて目録作成や資料保存を進めてほしい。
- ・このテーマに関して今後も調査を継続し、日野の財産になっていくことを感じた。
- ・市制 60 年記念にふさわしい展示テーマであった。内容も深く、広範囲に渡り、多様な関連事業も伴い、資料館の高度な到達点と力量を示すものと評価される。
- ・巽聖歌に関する資料が「全国で最も充実したレベル」まで達することができたというのは、素晴らしいと思う。新選組と並ぶ日野市の郷土資料の柱として、位置づけられるのではないかな。
- ・それだけの資料があるので、財政的には厳しいと思うが「巽聖歌資料館」などとして常時展示して、資料を見たり、学べる場所が合っても良いのではないかな。
- ・巽聖歌や新美南吉の作品は小学校の教科書に必ず出てくると思うので、小学校の授業と関連付けて調べ学習を行ったり、資料館の見学へ訪れるようなプログラムを各学校に提案できたらより広がりがあるかもしれない。
- ・巽聖歌の地域と離れている小学校は深入りしにくい。教員が国語科、社会科など教科の研究組織に所属し、1年間研究する制度が日野市立小学校・中学校にある。小学校社会科部担当の校長をしており、その中で旭が丘小学校では巽聖歌を扱った。郷土教育推進研究委員会でも各学校から一人ずつ委員を選出し、1年間日野の郷土について研究する。その中で授業者が4人選抜されて日野の郷土について巽聖歌を扱った授業を実際に実践した。旭が丘小学校では、自分たちの身近な生活圏に、郷土で活躍された方がいることを、児童がなんとなくわかっているのだから、それを授業の中で扱うことによってより地域性が高まる。地域の郷土愛というようなことも大きく想定しながら実際授業に取り組む学校もある。

課題と改善策

- ・展示副題に「新美南吉」ワードをいれることで、もっと新美南吉と巽聖歌のつながりをアピールでき、入館者増につながったのではないかな。
- ・この展示を契機に紫波町をはじめ、新美南吉資料館・與田準一記念館・金子みすず記念館・諏訪市美術館・岡谷市美術考古館等と、新たなつながりができた。これを今後の事業展開にいかにかに生かすのかが新たな課題である。
- ・この展示を通して、巽聖歌・野村千春夫妻のことを市民一般に広く周知することができた。
- ・これまでの調査研究の成果を継承し、市民の郷土理解に資する方向性を検討する。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No.4 文化財調査および資料収集事業
事業の概要	
・代替わりや区画整理等の理由で処分される建造物または蔵等に収蔵されているものについて、専門家と連携して調査を行い、地域を語る資料の記録保存を行う。 ・個人所蔵の資料の調査や資料受領を行い、地域の文化財として収集し活用する。 ・令和 5 年度は異聖歌に関する調査を重点的に実施した。	
事業の成果	
・異聖歌関連調査：八王子喜福寺本堂及び野村千春作品の記録撮影 ・特別展にかかる調査：與田準一記念館（福岡県みやま市）・諏訪市美術館（長野県諏訪市）、新美南吉記念館（愛知県半田市） ・開発に伴う蔵の記録保存調査 ・戦争関連の聞き書き（次年度平和展で紹介予定） ・旧農林省日野桑園第五蚕室等の写真調査 ・資料寄贈：はがき（異聖歌関連）、鬼子母神像、石の道標、酒樽など 12 件 ・古書店からの購入：異聖歌関連資料等	
協議会の意見	
・開発協議の中で、遺跡の保存地ならば、今までの調査を踏まえて事前の協議が必要となる。遺跡の範囲は年々変わっていくものなので、開発の前にわかるシステムが必要。 ・第五蚕室では蚕の飼育の検証実験を行っていたという。幕末から富岡製糸場の設立を経て輸出が盛んになった時代、悪い品質の生糸で評判が悪くなって安く買いたたかれたとか、そういうのを解決するため、蚕糸試験場日野桑園は、明治 44 年から動いてきた日本人にとって貴重な場所である。 ・第一蚕室の建物では、中央公民館や仲田小学校との関わりでいろいろと取り組んできた。文化財ウィーク公開などの取り組みで見学者が増えたことはうれしく思う。	
課題と改善策	
・「緊急案件」ではあるが、計画できるものは、事前に予算も含め調査計画をたてることが望ましい。 ・文化財に関わる団体・企業・個人などからの情報収集に努める。 ・開発行為などの情報を得るために、日野市役所の他部署との連携をはかる。 ・展示や行事に訪れた関係者からの聞き書き・資料収集により蓄積をはかる。 ・調査結果や収集資料を公開できていない。公開できるものは HP や広報などで周知し、成果の還元をはかる。 ・教育センター（郷土資料館）老朽化にともなう将来的に閉鎖を踏まえ、資料保管場所の確保が深刻な課題である。 ・地域や家庭で祀っていたものが維持できなくなったという相談が増えてるようになった。どのように調査、収集していくのが課題である。	

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No.5 古文書等歴史資料の調査・整理事業
事業の概要	
・日野市域の歴史を語る上で貴重な古文書等歴史資料を収集し、調査、整理、目録作成、撮影などを行ない、必要に応じて修復など保存のための手段を講じる。 ・古文書を解読して、展示などに利用するほか、印刷物として刊行し、広く市民の利用に供する。 ・古文書を利用した講座や見学会を開講し、古文書に対する市民の理解を深め、古文書を読み解く楽しみを広める。 ・郷土資料館がこれまでに保管および撮影してきた古文書等歴史資料のフィルムやデジタルデータを整理し、資料館の事業に活用する。 ・古文書等歴史資料整理編集委員会を年 3 回開催し、委員の意見を参考にして上記の事業を行う。	
事業の成果	
・個人蔵歴史資料の調査・資料収集など 古文書に関する市民からの相談に乗り、建物の取り壊しなどで散逸の恐れのある資料の保護につながる活動を行った。また、個人所蔵の資料を期限付きで借用し、調査、整理、目録作成、撮影などを実施した。古文書類を含む寄贈は令和5年度 4 件。 ・歴史的公文書の調査整理・デジタル化の推進と公開 資料館が保管する旧七生村役場文書や日野市行政資料は、令和4年度に図書館と協働して「歴史的公文書デジタル化事業」を行い、公文書のデジタル化が大幅に進展した。これまで未整理だった行政資料を、この機会に整理・目録作成し利活用に向けて動き出した。順次歴史的公文書を日野市公式ウェブサイトで公開する。令和 6 年度も事業を継続するため、撮影の下準備となる整理を行なった。 ・古文書の裏打ち修復委託の実施 「田畑其外反別取調野簿 百草村」、「田畑其外反別取調野帳 三 程久保村」各1冊 旧七生村役場文書の中から、虫損の被害が特に甚大で、湿気による紙の固着でページを開けなかった史料を選択。ただし、程久保村全 56 丁の内 23 丁は次年度に継続実施予定。 ・初心者向け古文書講座の開催 「南平のむかし」をテーマに 1～3 月の土曜に全 6 回開催した。新収蔵資料を紹介する企画展の展示資料を教材に使用した。講師は日野の古文書を読む会の上野さだ子氏と大窪俊彦氏で、村絵図、村明細帳、鉄砲証文などについて講義した。延べ 119 人参加。 ・日野の古文書を読む会研究部会と協働調査 日野宿関連文書や井上恒正コレクションなどの整理を 19 回実施した(ボランティア延べ 104 人参加)。また、古文書の解読を 42 回行った(ボランティア延べ 385 人参加)。日野の古文書を読む会の例会は 11 回(延べ 214 人参加)。 ・古文書等歴史資料整理編集委員会を 6 月、11 月、3 月の 3 回開催した。	

No.5 古文書等歴史資料の調査・整理事業

協議会の意見

- ・郷土資料館の立場で古文書所蔵者に声がけすることが大事である。資料館が古文書の解説の手助けができる信頼関係を築いて欲しい。
- ・古文書を読める人や、古文書を教える人の高齢化が進んでおり、重要な問題となっている。古文書を読めるように、教えられるようになるには最低でも4・5年かかる。現役リタイヤしてからというのもどうだろうか。若い人もなかなか参加できない。そのような問題がある。
- ・子ども向けの古文書講座を行って、子どもから読めるのもよいのではないか。
- ・旧七生村役場文書と日野市行政資料のデジタル化と公開が進んだことは画期的であり、日野市郷土資料館の新しい分野の事業として位置づけられるのではないか。最近公文書、役場文書が特に注目されている。
- ・内閣府は国の行政機関や独立行政法人等における公文書管理法の運用を推し進めて、国立公文書館の新館計画が進行中である。今後、地方自治体でも公文書の管理と公開が進むであろう。日野市の公文書や庁内刊行物の調査・整理・保存は、市民に行政資料を提供・公開するための事業である。今回の図書館との協働を継続するとともに、今後の課題も検討していただきたい。関連の各庁内の部署と連携し進めて欲しい。
- ・古文書講座に参加した。まったく初めての人から、講師の間違いを指摘する人まで、参加者の理解度に差があった。基礎的なことが全く分からなくても、ちょっと勉強したらかなり理解が変わる。知らなかった世界に参加すると、理解ができて楽しいということを伝える意味でも、身近に参加できる企画はとても大切である。来年度も実施を望む。
- ・中、近世の資料整理の体制を強化して引き続き進めると共に、現代を含め、行政資料についても、史料として無にならないように配慮していただきたい。また、資料の良好な収蔵場所の確保をお願いしたい。
- ・歴史的公文書の調査整理・デジタル化の推進と公開について、収蔵資料のデジタルアーカイブでの公開が始まったのは大きな一歩だと思います。今後は多摩市のデジタルアーカイブのようにかつての街の写真など郷土写真も公開できれば、学校教育での調べ学習などでも活用できるものになると思う。

課題と改善策

- ・未整理の資料が多く、特に資料の撮影に時間を要する。収蔵施設が雨漏りや害虫の侵入を完全に防げない施設であり、収蔵場所が不足している点も、郷土資料館全体の問題として早期に解決しなければならないと考える。
- ・古文書講座では、毎年のように参加申込する常連の参加者がおり、アンケート調査では、中級などステップアップした講座を希望する声もある。日野の古文書を読む会や他団体が行う講座への誘導もしているが、希望通りのマッチングは難しい面もある。古文書を学びたいという市民の要望があることは無視できず、完全な初心者向けとは別に、中級クラス向けの講座も開講できればよい。また、委員からは子ども向けの古文書講座のご提案もいただいております。令和6年度8月に実施した。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 6 百草・倉沢エコミュージアム事業
事業の概要 平成18年「真慈悲寺調査推進プロジェクト」の発足を契機に、百草倉沢地区の歴史・文化の調査、研究、普及活動を実施してきた。実施にあたっては、調査活動、現地ガイドも市民ボランティアが務め、真慈悲寺を含む百草地域の歴史を発信してきた。また、史跡周囲の環境整備を市民ボランティアとともに精力的に活動を行ってきた。百草にある真慈悲寺調査センターを拠点としている。 令和3年度からは、「百草・倉沢エコミュージアム」と称し、百草・倉沢地域全体を「屋根のないミュージアム」としてとらえ、史跡や自然といった地域の魅力を発信していく事業を展開している。真慈悲寺調査を引き継ぎながら、百草・倉沢に関する多様なテーマに、ふるさと文化財課全体で取り組んでいる。	
事業の成果 <真慈悲寺調査研究事業> パネル展や講演会などを通して、百草地域の歴史を広く知らせることができた。百草地域解説看板清掃など市民協働で実施し、史跡見学時の環境を整備することができた。 ・真慈悲寺現地イベント コロナ禍で中止していた銅造阿弥陀如来坐像公開時に、講演会と真慈悲寺ボランティアによる対面ガイドを実施。 講演会「幻の真慈悲寺に瓦が葺かれていた頃～佐渡配流の日蓮は見た～」 清野利明氏 京王百草園松連庵 ・京王百草園 パネル展示など ①「百草の歴史を楽しむ-松平信康と百草園-」11月18日～11月26日 真慈悲寺調査ボランティアによる解説ガイドも同期間開催 ②「百草の歴史を楽しむ-リニューアルされた松連庵の屋根の下で-」2月6日～2月16日 ・郷土資料館パネル展「中世の大寺院真慈悲寺」10月7日～R6年1月14日 ・京王百草園・百草八幡神社周辺地域解説看板二次元コードの更新 ・真慈悲寺勉強会 月2回水曜日実施。延べ221人が参加した。 <万蔵院台遺跡縄文資料調査事業> 寄贈された縄文土器・石器(万蔵院台縄文コレクション)の整理作業を体験的な学習の機会を提供しながら、市民協働で実施した。参加者は「考古隊」(略称)メンバーとして、継続的にコレクションの整理作業に延べ45回442人が参加し整理作業を進めることができた。 ・企画展「考古隊、はじめの一步」新選組のふるさと歴史館2階展示室(7月11日～9月18日) ・講演会「万蔵院台遺跡と大栗川流域の縄文集落」講師:安孫子昭二氏 市役所505会議室(7月15日) ・考古隊活動:「万蔵院台縄文コレクション」整理作業。月4回土曜日実施。真慈悲寺調査センター ・考古隊講座:「縄文土器作り」講師:井上晃夫氏 真慈悲寺調査センター(9月30日、11月18日) ・考古隊遺跡見学:「大栗川流域の縄文時代遺跡巡り」講師:安孫子昭二氏(11月4日) <その他の普及事業> 子供向けや自然をテーマとした行事を実施することで、今までとは異なる参加者に対する普及活動を行うことができた。 ・「新緑の丘陵散策～百草の自然と歴史を楽しもう」百草園駅・七生丘陵散策コース・京王百草園(5月21日) ・体験学習会「里山秋の実り&縄文オーナメント作り」真慈悲寺調査センター、万蔵院台・周辺雑木林(12月3日)	

No. 6 百草・倉沢エコミュージアム事業

協議会の意見

- ・真慈悲寺と考古学の研究会に実際参加している。参加者はとても一所懸命である。高齢者の方がほとんどですが、高齢者は元気なので、次の高齢者に引き継いで行けばよいのではないかな。
- ・真慈悲寺では、長く研究に取り組み専門的なレベルにまで達した一般市民の研究者の人たちが、百草園の行事に来場した人に説明をしている。
- ・非常に熱心な取り組みで、またあらゆる分野でそうだと思いますが、学芸員が自分の時間まで犠牲にしている部分もあるのではないかと、心配するほど手をかけており、ありがたいと思う。

課題と改善策

- ・エコミュージアム事業そのものについて、市民には浸透しておらず、考古学以外の分野として、自然観察会や親子向け行事などを引き続き企画実施して、発信を続ける。
- ・コロナ渦中の活動から通常の活動となったが、感染症やケガ防止など市民の安全には配慮をする。
- ・百草・倉沢地域の歴史・文化・自然の魅力を知らせ、後世に伝える役割を果たすために、百草・倉沢エコミュージアム事業展開をするために、中核となる施設(真慈悲寺調査センター)のほかに、アンテナとなる史跡、施設、店舗、それらの資源を結ぶコースを設定していく。大きな計画を実現させるために、一歩一歩前進していく。
- ・案内表示、休憩場所などのインフラ整備については、市他課などと連携をする。
- ・万蔵院台縄文コレクションの数が膨大であるため、「考古学体験」を重ねてレベルアップして、市民と協働して作業ができるような体制で整理作業をすすめる。
- ・エコミュージアムとして発展させていくためには、各方面との連携が不可欠であるが、地域の団体、農家、関連企業、大学、日野市の他部署などと連携するため、機会をとらえ声をかける。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 7 市民協働調査事業 「勝五郎生まれ変わり物語」、「七生丘陵の自然と歴史」ほか
事業の概要	郷土資料館は、市民と協働して調査普及事業を実施してきた。「日野の古文書を読む会」、「日野の昭和史を綴る会」といった既存の市民団体や、資料館の呼びかけで活動が始まった「真慈悲寺調査の会」、「勝五郎生まれ変わり物語探求調査団」、「七生丘陵調査団」、「程久保ボランティア」、「サイノカミどんど焼き勉強会」といった団体がある。そのほかにも各団体や個人と協力関係をもって、郷土資料館の調査や普及活動を行っている。 ＜勝五郎生まれ変わり物語探求調査団＞ ・平成18年度より、地元に残る生まれ変わり伝承の調査・研究普及事業を、市民参加の調査団を結成して行っている。令和5年度の総活動回数は23回、総参加者数は335人だった。普及のため、公開講演会・記念日イベントなどを開催やインターネットでの発信を行う。 ＜七生丘陵調査団＞ ・平成21年度に結成された「七生丘陵調査団」は、七生地域を中心に、自然と暮らしの結びつきや、地域の歴史などの分野にわたるテーマで調査を行い、展示や見学会などを開催して地域の魅力を伝えている。 ＜サイノカミ・どんど焼き勉強会＞ ・平成30年から日野市域のサイノカミ等の行事を調査・記録し地域に還元している。 ＜程久保ボランティア＞ ・民具の調査作業として、撮影やスケッチ、リスト作成などを行う。
事業の成果	・コロナ禍に停滞していた市民との活動や普及事業が通常に戻り、以下の事業を展開することができた。 ・市民とともに調査を実施することで、多様な視点での気づきを共有することができた。また、協同作業により、調査や整理作業が格段に進んだ。普及活動を市民が行うことで、地域の魅力を市民目線にたって実感を込めて伝えることができた。生涯学習の機会提供ともなった。 ・情報発信の得意な市民の力を得ることで効果的に普及活動を行うことができた。 ＜勝五郎生まれ変わり物語＞ ・例会・総会・公開講演会・記念日イベント・見学会(浅草寺)・子ども講座を開催した。 ・WEB公開では海外(フィンランド)からも反響があった。X(Twitter)では94回と発信を増やした。YouTubeの視聴者数右は834回、累計5,244回となった。報告書改訂版・活動報告等のWEB全文公開が完了し、動画配信2本を追加した。ネット配信により講座などイベントの紹介・参加者増ほか普及活動全般について効果的に実施できた。 ・夢が丘小学校の学習発表会で、3年生が「勝五郎生まれ変わり物語」の劇を上演した。台本担当教諭が、春休み子ども講座に参加し、社会科見学で3校が勝五郎物語のDVDを視聴した。 ・代表が交代し、40代の新代表のもと新たな活動を広げることが出来ている。40代の加入者も1名あった。 ＜七生丘陵の自然と歴史＞ ・調査団員の野外活動・例会など48回、延べ182人。 ・丘陵散策コースの植物(樹木)をテーマに掲げ、動植物の記録や写真撮影を行い調査成果をパネル展「花も実もある七生丘陵散策コース(樹木編)」として、平山季重ふれあい館に展示した。 ・探訪会 七生丘陵の見晴らし散歩では、調査団の市民がコース設定をし、案内役を務めた ＜サイノカミ・どんど焼き勉強会＞ ・自治会や神社で開催する夏祭りや秋祭りの調査を10か所実施した。 ・16件のサイノカミの準備、開催の様子を記録した。 ・調査範囲を広げたことにより市民とのつながりが増え、資料館の他の調査研究に役立てることができた。 ＜日野の昭和史を綴る会＞ ・日野本郷の地名、市内の文書の解説を実施した。

No. 7 市民協働調査事業
勝五郎生まれ変わり物語、「七生丘陵の自然と歴史」ほか

協議会の意見

- ・郷土資料館は毎年様々な歴史分野、民俗分野、自然分野、様々な市民の人たちと協働していろいろな事業を進めている。今後の課題として挙がってきたのは、やはり長く続けてきた団体は当然みな高齢化をしていくので、それを如何に持続するか、持続可能にするかということが、問題になってくるかと思う。
- ・勝五郎生まれ変わり物語探求調査団の事業内容をWeb上に公開して、情報を更新することは、新たな活動のあり方を示すものであろう。ホームページの内容は多岐にわたっていて、大変充実している。興味のあるところを自由にいつでも読むことができるので、書籍を読むのとは違う利便性がある。今までの刊行物を紹介して、購入方法を案内しているのも親切である。
- ・将来にわたってホームページを維持管理することは、情報の継続性を担保するものとして重要であらう。
- ・ネットの情報はいつまでそのネット上に上がっているかという保証がない如何にそのホームページに今上がっている情報を将来にわたって持続していくための仕組みがやはりとても大切ではないかと感じた。
- ・今後冊子として何回も研究成果を発表することは難しくなるのではないかということで、様々な過去の刊行物をネット上で見れるということも進んできました。ネットで公開するという、非常に充実した内容のホームページだと思った。

課題と改善策

- ・勝五郎生まれ変わり物語探求調査団では、調査団は来年20年目の活動を迎えるので、今までの成果を見直すとともに、新たな活動にむけて舵を切る必要がある。高齢化も進んでいるが、世代交代の可能性も見えてきているので、10年後、20年後を視野に入れた計画を進めていきたいと考えている。
- ・七生丘陵調査団では、屋外活動時間の短縮など無理のない計画が必要となる。調査情報集約および資料整理は引き続き課題となっている。毎月の例会にて情報共有をはかるほか、パネル展への編集作業だけでなく、保存記録の活動も並行して実施する。
- ・サイノカミ・どんど焼き勉強会では、令和5年度はサイノカミ関連写真の提供が2件あったが、調査者以外の写真等の収集は未だ行っていない。市民等による写真等の記録にも注目し、積極的な声掛けを心掛ける
- ・全般に、高齢化により、活動に参加できなくなる市民もあり、新たな参加者とともに活動を継続し、構成員の実態に合わせて充実させていくこと必要である。また、高齢者を含め市民の安全対策も講じる必要がある。
- ・活動へのコロナの影響は減少したが、市民とともに活動を行う以上は各自の体調管理だけでなく無理のない活動計画といった配慮が必要である。
- ・メンバーの入れ替りもあり、積み重ねた調査成果の保存と活用について検討する必要がある。
- ・今までの団体との市民団体との協働のあり方だけではなく、個人参加や大学との連携など多様な協働のあり方も提案していく。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No.8 資料館講座・体験学習事業
事業の概要 ・郷土の文化や歴史・自然などを、より深く学ぶために講座や体験をともなう学習会を開催する。 ・No.7 までの個別の事業として取り上げた講座・事業と重複するものも含めてまとめた。	
事業の成果 郷土の自然・歴史・文化などについての講演会や体験学習会を開催したり、他課との協力事業へ職員が講師となったり、団体の学習会への講師派遣も行った。専門的な外部講師を招いての講座や、屋外での観察会などを開催することで、より深く学ぶ機会を提供することができた。 <講演会・講座・体験学習会> ・たきび祭 前夜祭ほか、巽聖歌関連事業を実施した(No.3 参照) ・初心者向け古文書講座 全 6 回 講師:大窪俊彦氏・上野さだ子氏(日野の古文書を読む会)1~3 月 ・真慈悲寺現地イベント講演会 「幻の真慈悲寺に瓦が葺かれていた頃~佐渡配流の日蓮は見た~」 講師:清野利明氏 9月17日 京王百草園 ・どんど焼きの小屋作りとお焚き上げ R6年 1 月 20 日 <自然観察会や野外講座の開催> ・「新緑の丘陵散策~百草の自然と歴史を楽しもう」百草園駅・七生丘陵散策コース・京王百草園(5月21日) ・体験学習会 「里山秋の実り&縄文オーナメント作り」真慈悲寺調査センター、百草地域(12 月 3 日) ・探訪会 七生丘陵の見晴らし散歩 百草台自然公園・京王百草園(1 月 13 日) ・化石でたどる大昔の日野 西田尚央氏(東京学芸大学准教授) 会場多摩川(3 月 23 日) <他課との協力事業> ・「蚕のここと一緒に学びませんか」(中央公民館 繭から糸取り体験) ・多摩学びテラス「調布玉川惣画図」を歩く(中央公民館・多摩市公民館) <団体学習会への講師派遣> まちまなびカフェ 豊田の歴史、巽聖歌	
協議会の意見 ・緑と清流課と協力し、市内の公園や緑地などで、どんど焼き用のススキ原を作れないでしょうか。どんど焼きで使えるような背の高いススキを刈り残しておくことは、生物多様性の保全にもつながる。 ・どんど焼きを稲わらでやるように行事が変化するのは構わないと思うが、本来どういう形でどういう意味合いを持きってなされたのか、古くは夕方実施するとか。ススキの保存という考え方も大切である。代わりになるものを探すこともしかたないが、本来はこうだったというのがあってしかるべきではないか。 ・サイノカミどんど焼きという言葉についても、多摩のどんど焼きでは正月飾りを集めて小山にして燃やすというのは失われている。サイノカミどんど焼きがお祭りの方面まで広がっている。宗教との関連もとやかく言われることが多いけど、少し考えておいた方がよい気がする。 ・どんど焼きの団体があるのがうれしい。子どもの頃繭玉飾りを焼いたり、書初めを焼いた。養蚕の蚕に感謝・供養の気持ちを込めて繭玉を食べるとか。会場も校庭でやったり、校庭でできなくなったり変化している。 ・養蚕は殺生だということを理解する部分がある。	
課題と改善策 ・化石の観察会「化石でたどる大昔の日野」は、観察可能な場所が限られ、安全対策からも少人数定員・短時間で実施している。 ・「どんど焼き」の小屋の材料となるワラなどの入手は市民に頼っており、材料調達が困難になると開催に影響が出る。また、会場となるグラウンドの継続使用がいつまで可能かといった懸念もある。持続可能な事業を目指し、日野市域の各所と協力しながら、材料や方法等を再考する。 ・全般的に高齢者の参加申し込みが多い。子ども、勤労者、学生など、多様な参加者層を想定した事業の企画が求められている	

1 郷土資料館協議会

開催日 会場	議 事 案 件
R5. 7. 28 郷土資料館	(1) 協議事項 日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価について (令和4年度事業) (2) 報告事項 ・ 令和5年度事業の進捗状況と今後の予定について ・ 教育センター、およびふるさと文化財課の施設再編について ※企画展見学「ひのっ子学び展～地域を知る副読本と給食～」
R5. 12. 7 日野市役所 新選組のふるさと歴史館	(1) 報告事項 ・ 日野市郷土資料館条例の改正について ・ 令和5年度郷土資料館およびふるさと文化財課事業について ・ 令和6年度事業について ・ 教育センター、およびふるさと文化財課の施設再編について ※会議後、特別展「童謡詩人 巽聖歌～児童文学に生きた、ひとすじの道～」見学
R6. 2. 22 郷土資料館	(1) 報告事項 ・ 郷土資料館協議会第9期任期終了および第10期委員について ・ 令和6年度郷土資料館およびふるさと文化財課事業について ・ 令和5年度事業について ・ 日野宿本陣クラウドファンディングの結果と建造物調査の実施について ・ 日野宿本陣上段の間の文化財指定について ※会議後、企画展「日野を語る資料～未来へ託す収蔵品～」見学

2 展示・運営事業

(1) 月別来館者数（団体も含む来館者数）

月	入館者数
4月	266
5月	324
6月	235
7月	320
8月	366
9月	342
10月	271
11月	412
12月	230
1月	352
2月	327
3月	322
合計	3,767

(2) 企画展示別来館者数（団体も含む来館者数）

企 画 展 名	展示期間	入館者数
企画展「七生丘陵ハイキング～身近な自然を訪ねて～」	R5. 4. 1～R5. 7. 9	883
企画展「ひのっ子学び展 ～地域を知る副読本と給食～」	R5. 7. 15～R5. 10. 1	978
企画展「中世瓦が語る寺と神社 – 日野の真慈悲寺と百草八幡神社 –」	R5. 10. 7～R6. 1. 14	981
企画展「日野を語る資料～未来へ託す収蔵品～」	R6. 1. 20～R6. 3. 31	919
パネル展「たきびの詩人 異聖歌没後 50 年記念パネル展」	R5. 4. 6～R5. 6. 27	—
パネル展「明日に伝える戦争体験 ～戦争の時代と児童文学者 異聖歌」	R5. 6. 29～R5. 10. 1	—
パネル展「中世の大寺院 真慈悲寺」	R5. 10. 7～R6. 1. 14	—
合 計		3,761

※ パネル展は企画展と同時開催のため来館者数の記入なし。

※企画展「日野を語る～未来へ託す収蔵品～」は 4. 14 まで開催し、期間中の総入館者は 1,058 人となった。

企画展「七生丘陵ハイキング～身近な自然を訪ねて～」関連講座

R5. 5. 21 新緑の丘陵散策～百草の自然と歴史を楽しもう 8 人

※百草倉沢エコミュージアム事業の一環

(3) 学校等団体来館者数

月 日	学校名等	対 象	内 容	人数
R5. 5. 10	明星大学	経営学科	展示見学	13
R5. 6. 15	七生特別支援学校	高等部 1 年	見学	32
R5. 7. 6・7	三沢中学校	2 年	職場体験	4
R5. 9. 5	日野第六小学校	3 年	社会科見学	110
R5. 9. 7・8	日野第四中学校	2 年	職場体験	10
R5. 9. 21	豊田小学校	3 年	社会科見学	158
R5. 9. 26	明星大学	社会学科	展示見学	30
R5. 10. 17	日野第七小学校	3 年	社会科見学	94
R5. 10. 25	わかば教室	小・中学生	蚕の繭 糸取り体験	18
R5. 11. 1	わかば教室	小・中学生	陸稻の脱穀体験	12
R5. 11. 1・2	日野第二中学校	2 年	職場体験	3
R5. 11. 2	七生中学校	1 年	地域学習 展示室	6
R5. 11. 7	旭ヶ丘小学校	3 年	社会科見学	79
R5. 11. 28	仲田小学校	3 年	社会科見学	79
R5. 11. 30・ 12. 1	日野第三中学校	2 年	職場体験	8
R5. 12. 8	大坂上中学校	1 年	総合 郷土学習	12
R6. 2. 8	夢が丘小学校	3 年	社会 昔の道具	61
合 計	17 件			729

3 市刊行物の有償頒布

書名	単価	部数	小計
日野市史 通史編 一 自然 原始・古代	2,400	0	
日野市史 通史編二（上） 中世編	2,000	0	
日野市史 通史編二（中） 近世編（一）	2,000	0	
日野市史 通史編二（下） 近世編（二）	2,500	0	
日野市史 通史編三 近代（一）	2,400	0	
日野市史 通史編四 近代（二） 現代	3,000	0	
日野市史 史料集 高幡不動胎内文書編	2,000	1	2,000
河野清助日記一 慶応二～四年	1,700	0	
河野清助日記二 明治二～六年	1,700	0	
河野清助日記三 明治七～十一年	1,700	0	
日野市ふるさと博物館紀要 第1号	1,000	1	1,000
日野市ふるさと博物館紀要 第2号	500	0	
日野市ふるさと博物館紀要 第3号	700	0	
日野市ふるさと博物館紀要 第4号	1,000	1	1,000
日野市ふるさと博物館紀要 第5号	700	0	
日野市ふるさと博物館紀要 第6号	700	0	
日野市ふるさと博物館紀要 第7号	700	0	
日野市ふるさと博物館紀要 第8号	1,000	1	1,000
日野市郷土資料館紀要 第1号	500	1	500
日野市郷土資料館紀要 第2号	500	0	
日野市郷土資料館紀要 第3号	500	1	500
市制40周年記念企画展 大工場がやってきた ～産業で振り返る日野の昭和・平成（図録）	300	1	300
ほどくぼ小僧勝五郎生まれ変わり物語（DVD）	500	4	2,000
ほどくぼ小僧生まれ変わりの勝五郎（絵本）	500	8	4,000
市制施行50周年記念特別展 日野市の半世紀 ～移りゆくまちの過去と今 そして未来～（図録）	800	2	1,600
ほどくぼ小僧勝五郎生まれ変わり物語調査報告書 改訂版	1,500	33	49,500
ほどくぼ小僧勝五郎生まれ変わり物語 日野市郷土資料館ブックレット1	200	38	7,600
日野の昆虫ガイドブック	1,100	0	
新・日野の動物ガイドブック	1,200	0	
たきびの詩人 異聖歌 日野市郷土資料館ブックレット2	200	7	1,400
日野用水開削四五〇周年記念特別展～日野人が守り育てた緑と清流～（図録）	500	6	3,000
たきびの詩人 異聖歌資料集1 ― 野村七蔵から異聖歌へ ―	1,600	2	3,200
日野市域における サイノカミ・どんど焼き行事調査報告書	600	5	3,000
合計		112	81,600

4 郷土資料館ホームページの移行

令和5年度から、新ホームページを公開開始

※「広報ひの」の配布に合わせるため先行して R5. 3. 27 から公開開始

旧ホームページは R5. 9. 30 をもって閉鎖し、R5. 10. 1 から日野市のホームページ内の新ページに本格移行をした。

5 博物館連携

(1) 東京都博物館協議会

R5. 7. 26	第1回総会（書面審議）
R6. 2. 14	第2回総会・見学研修会 会場：日本科学未来館
会報の発行No. 129、No. 130	

(2) 東京都三多摩公立博物館協議会 令和5年度 日野市会長館

R5. 6. 2	役員会・総会 会場：清瀬市生涯学習センター
R5. 12. 14	三多摩地域資料研究会・東京都三多摩公立博物館協議会 合同職員研修会 会場：東京都立埋蔵文化財センター
R6. 1. 12	役員会・協議会・見学会 会場：日野市郷土資料館（教育センター）
機関誌『ミュージアム多摩No. 45』の発行、HPの公開などを実施	

6 教育普及事業

(1) 講座・体験学習会

月 日	内 容	講 師	会 場	人数
R5. 4. 22	異聖歌 ゆかりの地をめぐるバスツアー①	職員	旭が丘中央公園～ 喜福寺（八王子市）	21
R6. 1. 13	探訪会～七生丘陵の見晴らし散歩	七生丘陵 調査団	百草台自然公園 京王百草園	15
R6. 1. 20	どんど焼きの小屋づくりとお焚き 上げ	小屋組指導 濱田豊氏	資料館前グラウンド	120
R6. 3. 14	異聖歌 ゆかりの地をめぐるバスツアー②	職員	中野区上高田区民活動 センター 新宿区立林芙美子記念館 中野区立歴史民俗資料館	25
R6. 3. 23	化石でたどる大昔の日野	西田尚央氏	多摩川	16
合計	5 件			197

そのほかの講座・体験学習会は、事業別に紹介。

(2) 連続講座 初心者向け古文書講座

月 日	内 容	講 師	会 場	延べ人数
R5. 1. 27 、 R6. 2. 3 、 R6. 2. 10 、 R6. 2. 24 、 R6. 3. 2、 R6. 3. 9	南平のむかし 全 6 回	上野さだ子氏 大久保俊彦氏	教育センター 講堂	119 人

(3) 出張事業（展示及び講師派遣）

ア 学校等へ出張授業

月 日	学校名	対 象	内 容	人 数
R5. 6. 8	七生特別支援学校	高等部 1 年	日野市を知ろう	32
R5. 10. 30	日野第一小学校	3 年	総合的な学習の時間 日野の自然	81

R6.1.23	南平小学校	3年	社会 むかしの道具	93
R6.1.24	平山小学校運営協議会	子ども～大人	文集「つくし」に見る平山の暮らし 子どもから見た大人たち	35
R6.1.25	旭が丘小学校	3年	総合 たきび祭、異聖歌	77
R6.1.31	七生緑小学校	3年	社会 むかしの道具	63
R6.2.8	旭が丘小学校	6年	異聖歌と紫波町・日野、新美南吉	80
R6.2.15	豊田小学校	3年	社会 むかしの道具	159
R6.2.21	平山小学校	3年	むかしの道具	91
R6.2.28	潤徳小学校	3年	むかしの道具	108
R6.2.29	日野第三小学校	3年	むかしの道具	72
合計	11件			891

イ その他 講師派遣、出張パネル展など

月 日	内 容	会 場	人数
異聖歌関連			
R5.10.25	講座 異聖歌について	デュオセーヌ豊田	11
R5.4.1	桜まつり 異聖歌パネル展	旭が丘中央公園	-
R5.4.18～R5.5.1	市役所パネル展(1)「野村七蔵と異聖歌」	市役所1階ロビー	-
R5.5.19～R5.5.30	市役所パネル展(2)「童謡詩人 異聖歌の活躍」	市役所1階ロビー	-
R5.5.31～R5.6.28	市役所パネル展(3)「戦時下の児童文学者異聖歌」	市役所1階ロビー	-
R5.7.1～R5.7.15	市役所パネル展(4)「後半生を旭ヶ丘で過ごした児童文学者異聖歌」	市役所1階ロビー	-
R5.9.8～R6.2.1	異聖歌パネル展	平山季重ふれあい館	-
R6.3.30	桜まつり 異聖歌パネル展	旭が丘中央公園	-
そのほか			
R5.3.25～R5.6.20	パネル展「七生丘陵散策コース 見晴らし台」	平山季重ふれあい館	-
R5.5.27・28	「日野市市制施行60周年記念イベント」、パネル展示「七生丘陵の自然と変遷」	多摩動物公園	-
R5.11.1～R5.11.30	パネル展 戦後の高幡とハイキング	高幡図書館	-
R5.11.23	まちまなびカフェ「とっておきの豊田の歴史」	豊田	16
R5.1.10・R5.1.17・R5.1.24・R5.1.31	多摩市×日野市たま学びテラス「調布玉川惣画図」を歩く(全4回)	多摩市・日野市	80
R6.3.23～R6.5.14	パネル展 花も実もある七生丘陵散策コース(樹木編)	平山季重ふれあい館	-
合計	14件		107

(4) レファレンス事業 電話・Eメール・手紙などで寄せられた質問への調査回答 110件

(5) 博物館実習 実習期間：R5.9.1～R5.9.7(ただし、4日は除く)の6日間 人数：6人

7 所蔵資料活用事業(10・5・3)

(1) 旧七生村文書を中心とした歴史的公文書のデジタルデータ化を図書館と協働で実施

(2) 資料の貸出事業

貸出先	資 料	目 的
桜美林大学	千歯扱き	博物館実習
平山小学校	展示パネル	平山小学校周年行事
中央公民館	座繰り器	講座蚕でつなぐプロジェクト糸取り体験
日野第四小学校	脱穀機・唐箕・手箕・千歯扱き・ふるい・こき簀	5年 総合的な学習の時間 脱穀体験
市民サポートセンター	展示パネル	まちまなびカフェ
セーフティーネットコールセンター	紙芝居、勝五郎、かぶとむしの一生	滝合地域の文化祭 たきわいわい
平山小学校・日野第六小学校・旭が丘小学校	糸車	1年 国語「たぬきの糸車」
合計 9 件		

(3) 資料の撮影・閲覧申請

目的	調査研究・論文用資料、博物館展示、公共工事、雑誌掲載、自治会HP、商工会展示、HP、地域歩き、市史、テレビ放送などの利用など
資料	・実物資料：植物標本 ・写真や画像データ：旧農林省蚕糸試験場日野桑園、ヒノクジラ発掘状況、絵図・制限図、古文書、巽聖歌肖像、ひのっ子学び展示風景、伝虚空蔵菩薩像、勝五郎再生記聞、金剛寺胎内文書、昔の風景写真、武蔵名勝図会
合計30件	

8 資料収集保存・調査事業

(1) 資料収集保存事業

項 目	内 容	件数等
資料寄贈	書籍、はがき（巽聖歌関連）、鬼子母神像、武江年表、DVD 石の道標、地図、酒樽、広報ひの、写真、背負子など	12
資料購入・製作	古書店より巽聖歌関連資料等を購入	12
収集資料の整備ほか	民具整理補助 市民協働	21
資料修復	「田畑其外反別取調野簿」及び「田畑其外反別取調野帳」各 1冊の修復を委託にて行った。	82丁

(2) 調査事業

ア 勝五郎生まれ変わり物語調査事業（市民協働調査 勝五郎生まれ変わり物語探究調査団）

項 目	内 容	人 数
例会	毎月第二水曜日午後 （12回）	145

総会	R5. 5. 21	9
調査団公開講演会	R5. 5. 21 今井秀和氏（共立女子大学専任講師） 「コロリとコクリー疫病と呪術・転生・妖怪」	23
記念行事	R5. 10. 8 高幡不動尊五重塔地下ホールにて開催 講演会 石井研士氏（國學院大學教授） 「変わる日本人の死生観—私たちは生まれ変わる、それとも死なない？」	115
調査活動	報告書改訂版、紹介動画等の公開（834人） R6. 2. 26 浅草寺、弘福寺見学会（11人）	845
その他の活動	春休み子ども講座（R6. 3. 30）	19
合計		1,156

イ 七生丘陵調査事業（市民協働調査 七生丘陵調査団）

内 容	回数	延べ人数
定例会（11回予定）・総会（1回）	12	55
室内資料整理作業や打合せ、見学研修会	7	28
七生丘陵の野外観察調査	29	99
パネル展「花も実もある七生丘陵散策コース（樹木編）」のための準備を年間通して実施 展示会期 R6. 3. 23～R6. 5. 14 会場：平山季重ふれあい館	-	-
合計	48	182

ウ 古文書等調査事業

項目	内 容	回数	延べ人数
日野の古文書を読む会 との協働調査	古文書整理	19	104
	古文書解読	42	385
	例会・総会	11	214
	小計	72	703
日野の昭和史を綴る会 との協働調査	日野本郷の地名調査、市内借用文書を解読	11	96
その他の古文書等 調査事業	地域の歴史を記録した資料の調査・整理・目録作成および写真撮影 市内借用文書、旧七生村・日野市行政文書ほか		
合計		83	799

エ 民俗調査（市民協働調査 サイノカミ・どんど焼き勉強会）

項 目	内 容	人数
祭礼調査	R5. 7. 29 大和田自治会（納涼祭）、R5. 8. 19 川辺堀之内（日枝神社例大祭 宵宮）、R5. 9. 2 南平（熊野神社例祭 宵宮）、R5. 9. 3 南平（熊野神社例祭本祭）、R5. 9. 16 第一日野万（稻荷神社例大祭 夜宮）・上田（北野神社例大祭 夜宮）、R5. 9. 17 宮（別府神社例大祭）・上田（北野神社例大祭 本祭）、R5. 9. 18 日野市（神輿パレード）、R5. 10. 8 緑ヶ丘（秋祭り）	24

サイノカミ 調査	R5.11.24 郷土資料館（竹取）、R5.12.16 宮（団子用篠竹切り）、R5.12.3 四谷（日野宮神社しめ縄作り）、R6.1.6 新井（団子用篠竹等材料準備）・第一日野万（団子作り）、R6.1.8 宮（正月飾り回収）・四谷（小屋作り）・第一日野万（点火）ほか 16 件	48
合計		72

オ 異聖歌関連調査事業

「特別展 童謡詩人 異聖歌 ～児童文学に生きた、ひとすじの道～」の開催準備のため、 與田準一記念館（福岡県みやま市）・諏訪市美術館（長野県諏訪市）、新美南吉記念館（愛知県半田市）で所蔵資料の調査及び展示資料の確認を行った。

9 日野市市制施行 60 周年 異聖歌没後 50 年記念 日野市・紫波町連携事業

月 日	内 容	講 師	会 場	人数
R5.10.7～ R5.12.10	特別展 童謡詩人 異聖歌 ～児童文学に生きた、ひとすじの道～	—	新選組の ふるさと歴史館	2,345
R5.10.21 R5.11.18	朗読会と展示解説（異聖歌と新美南吉の作品朗読と展示解説）	「朗読の会うづき」および職員	新選組の ふるさと歴史館	36
R5.11.19	講演会 「兄さんは僕についてすべてを知ってる～新美南吉にとっての異聖歌」	遠山光嗣氏 （新美南吉記念館館長）	市役所 505会議室	66
R5.12.8	たきび祭前夜祭 講演会 「異聖歌とふるさと紫波町」	内城弘隆氏（紫波町日詰地区先人顕彰会会長）	旭が丘 地区センター	72

※そのほかの異聖歌関連事業

- ・郷土資料館内パネル展（2 回）は、2 展示・運営事業（2）企画展示を参照
- ・異聖歌 ゆかりの地をめぐるバスツアー（2 回）は、6 教育普及事業（1）講座・体験学習会を参照
- ・異聖歌関連出張 パネル展は、6 教育普及事業（3）出張事業を参照

10 古文書等歴史資料整理編集委員会

開催日・会場	議 事 案 件
R5.6.1 郷土資料館	第 13 期委員委嘱状の交付 議題 1 令和 5 年度の資料調査事業について（13 件） 議題 2 広報「みんなのふるさとこぼれ話」について 議題 3 その他
R5.11.9 市役所会議室	議題 1 令和 5 年度の資料調査事業について（3 件） 議題 2 広報「みんなのふるさとこぼれ話」について 議題 3 その他 令和 5 年度古文書講座について 特別展見学 「童謡詩人異聖歌～児童文学に生きた、ひとすじの道～」(歴史館)
R6.3.7 郷土資料館	議題 1 令和 5 年度の資料調査事業について（3 件） 議題 2 広報「みんなのふるさとこぼれ話」について 議題 3 その他 令和 6 年度の公文書デジタル撮影の予定について

11 百草・倉沢エコミュージアム事業（文化財啓発事業）

件名		内 容	回数 又は 件数	人数
百草・倉沢エコミュージアム事業	万蔵院 台遺跡 縄文資 料調査 事業	企画展「考古隊、はじめの一步」 新選組のふるさと歴史館 2階展示室（R5.7.11～R5.9.18）	1	2,259
		講演会「万蔵院台遺跡と大栗川流域の縄文集落」講師：安孫子 昭二氏 市役所 505 会議室（R5.7.15）	1	51
		考古隊活動：「万蔵院台縄文コレクション」整理作業 月4回土曜日実施。真慈悲寺調査センター	45	442
		考古隊講座：「縄文土器作り」講師：井上晃夫氏 真慈悲寺調査センター（R5.9.30、R5.11.18）	2	16
		考古隊遺跡見学：「大栗川流域の縄文時代遺跡巡り」講師：安孫子 昭二氏（R5.11.4）	1	11
	真慈悲 寺調査 研究 事業	講演会「幻の真慈悲寺に瓦が葺かれていた頃～佐渡配流の日蓮 は見た～」講師：清野利明氏 京王百草園内松連庵 （※定員制）（R5.9.17）	1	30
		展示・ガイド ・国指定重要文化財「銅造阿弥陀如来坐像」公開時の対面解説 ガイド（東京文化財ウィーク参加事業）（R5.9.17） ・京王百草園紅葉まつり パネル展「百草の歴史を楽しむー松 平信康と百草園ー」および真慈悲寺調査ボランティアによる解 説ガイド（R5.11.18～R5.11.26）	2	200
		展示：京王百草園梅まつり パネル展「百草の歴史を楽しむ～ リニューアルされた松連庵の屋根の下で」（R6.2.6～R6.2.16）	1	100
		真慈悲寺研究会月2回活動実施、百草観音堂卯年御開扉の記録 調査、『百草倉沢地区歴史散策ガイド』改訂増補版の編集、中世 瓦研究会等	21	221
		百草地域解説看板二次元バーコードの貼り替え	1	-
	自然	「新緑の丘陵散策～百草の自然と歴史を楽しもう」 百草園駅・七生丘陵散策コース・京王百草園（R5.5.21）	1	8
		体験学習会 「里山秋の実り&縄文オーナメント作り」 真慈悲寺調査センター、万蔵院台周辺雑木林（R5.12.3）	1	14

<参考資料>

Ⅱ 日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱

平成21年3月31日制定

(目的)

第1条 この要綱は、博物館法(昭和26年法律第285号)第9条の規定する、日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 日野市郷土資料館(以下「資料館」という。)は、毎年1回、資料館の運営状況について評価を行う。

(評価の方法)

第3条 資料館は、資料館協議会の意見を聞きながら、評価を行うものとする。

(教育委員会への報告書の提出)

第4条 資料館は、評価に関する報告書を毎年度作成し、教育委員会に提出する。

(評価結果の公表)

第5条 資料館は、評価の結果を市民に公表する。

(評価結果の活用)

第6条 資料館は、評価の結果に基づき、その運営の改善に努めるものとする。

(庶務)

第7条 評価に関する庶務は、資料館資料館係において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、資料館長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する

< 参考資料 >

Ⅲ 日野市郷土資料館協議会委員名簿（第 10 期）

番号	氏 名	専門分野	期
1	平 自由 (委員長)	社会教育の関係者 (考古学・博物館学)	5
2	佐藤福子 (副委員長)	学識経験者 (歴史・古文書研究)	4
3	畠山 豊	社会教育の関係者 (民俗学・博物館学)	5
4	保坂一房	学識経験者 (多摩の地域史研究)	5
5	片山 敦	学識経験者 (生物・環境教育)	4
6	柳元太郎	社会教育の関係者 (郷土教育研究)	1
7	斉藤境栄 任期:令和 4 年4月1日～令和 6 年3月3日	学校教育の関係者 (東光寺小学校校長)	2
8	川島清美 任期:令和 4 年4月1日～令和 6 年3月3日	学校教育の関係者 (日野第三中学校校長)	2
9	河合今日子	公募市民	2
10	藤森寛行	公募市民	2

任期 自 令和 6 年 3 月 4 日

至 令和 8 年 3 月 3 日

令和 6 年度日野市郷土資料館の
運営の状況に関する評価書
(令和 5 年度事業)

令和 6 年 10 月

日野市ふるさと文化財課
(郷 土 資 料 館)

〒191-0042

東京都日野市程久保 5 5 0 番地

電話 0 4 2 - 5 9 2 - 0 9 8 1

FAX 0 4 2 - 5 9 4 - 1 9 1 5